

第3回三次市空家等対策計画策定等協議会

【追加意見（要旨）】

（委員E）

- ・リーディングプロジェクト1、取り組み例：多様な媒体を使った情報提供について。以前より、若い人達に対し、空き家活用の情報量が少ないと思っている。CATV関係者へ、地元工務店等が手掛けた新築、リフォーム事例を紹介するような番組を作成してはどうかと問いかけをしたことがあるが、余り反応がなかった。CATVというローカルメディアに触れる年齢層は分からないが、空き家活用のヒントを与える機会にはなると思う。
- ・取り組み例：空き家等講演会、セミナーの試験開催について。空き家を貸すことは可能だが、いずれ帰省して住む可能性もあるというニーズに対しては、他の自治体でも連携事例がある、一般社団法人移住・住みかえ支援機構（JTI）について周知するセミナーの開催も1案だと思う。
- ・リーディングプロジェクト2、取り組み例：空き家相談コンシェルジュの設置について。他の方の意見と同様に、地域の実情を熟知した方がこの職に就かれるのが適正だと思う。併せて、移住コンシェルジュの役目も果たすことで、相談者への情報提供がワンストップサービスとして機能するのではないか。それから移住者が定着する為のサポート体制も必要だと思う。
- ・取り組み例：関係団体（建築士会、宅建業、弁護士会、司法書士会、建設業会）と行政機関の連携による総合相談体制の整備、相談会の開催について。相談案件に基づいて専門委員により定期的で開催される、空き家評価委員会のような組織を立ち上げて相談体制を整えるのが良いと思う。
- ・その他、意見。平成45年には、空き家率が現在の倍近い30%台まで進む予測もある。現在、消費税や金利のことがあり、三次市内でもどんどん新築住宅が建っている。世帯数の増加が見込めない限り、将来の空き家が増え続けている現状があると思う。少し前から言われていることだが、中古住宅市場を活発にする為の方策・支援や、相続に関すること、また建築に関する法改正が必要だと思う。